

設置計画の概要

事項	記入欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻の設置
フリガナ設置者	コクリツタ'イカ'クホウジン トウホクダ'イカ'ク 国立大学法人 東北大学
フリガナ大学の名称	トウホクダ'イカ'クダ'イカ'クイン 東北大学大学院 (Graduate School of Tohoku University)
新設学部等において養成する人材像	<p>[専攻全体]</p> <p>① 人材養成の目標:「社会環境の視点から個人の健康問題を把握してその解決にあたるスキル、個人と社会におけるより良い健康の実現に貢献しようとする使命感」という公衆衛生の素養を有したうえで国際レベルの高度な専門性及び高い職業的倫理観を有する研究者、指導者及び実践者を養成する。</p> <p>② 教育研究上の目的:社会医学全般と医療倫理学に関する基礎知識を習得させ、専門とする研究領域における中級レベルの知識と研究企画能力・遂行能力を習得させる。さらに、ディスカッションやプレゼンテーションを多用した教育により、思考力・分析力及び発表や議論を的確に行うための能力を習得させる。</p> <p>③ 卒業後の進路:公衆衛生に関連する各種の専門職として活躍するほか、大学院博士課程に進学して教育研究に携わる者も期待される。</p> <p>[一般コース]</p> <p>① 人材養成の目標:公衆衛生学とその関連領域において高度な専門性及び高い職業的倫理観を有する研究者、指導者及び実践者を養成する。</p> <p>② 教育研究上の目的:講義と演習、論文研究を通じて、所属分野の研究領域における最新の知識と研究企画能力・遂行能力を習得させる。</p> <p>③ 卒業後の進路:国や自治体(保健所など)企業での健康管理、医療保険団体における医療費分析、さらに保健医療関連のシンクタンクなどにおける分析・企画などの分野。博士課程に進学して各専門分野の教育研究に携わる者も期待される。</p> <p>[高度臨床研究支援・管理者育成コース]</p> <p>① 人材養成の目標:臨床研究の企画・実施に関する高度な専門性と職業的倫理観にもとづき、臨床研究を支援する専門職(データ・マネジャー、プロジェクトマネジャー、薬事専門家)及び臨床研究の理論面での進歩に貢献する研究者を養成する。</p> <p>② 教育研究上の目的:臨床研究の企画・実施に関する最新の知識を講義で教育し、臨床研究を実施する際の実践能力を演習で習得させ、研究能力を課題研究で習得させる。臨床研究を遂行するうえで求められる、高度な倫理観と多職種間のコミュニケーション能力・協調性を習得させる。</p> <p>③ 卒業後の進路:製薬企業や医療機関、臨床試験支援機関、薬事関連機関(医薬品医療機器総合機構)など。博士課程に進学して臨床研究の教育研究に携わる者も期待される。</p> <p>[臨床研究管理医養成1年コース]</p> <p>① 人材養成の目標:臨床研究の企画・実施に関する高度な専門性と職業的倫理観にもとづき、臨床研究を主導する医師・歯科医師を養成する。</p> <p>② 教育研究上の目的:研究仮説を形成し、それを適切に検証するための研究プロトコールを作成する能力を習得させる。そのため、臨床研究の企画・実施に関する最新の知識を講義で教育し、臨床研究を実施する際の実践能力(とくにプロトコール作成能力)を演習で習得させる。その際は、本コース修了後に進学を予定する臨床医学分野教員との連携により、臨床研究プロトコールを作成させる。さらに、臨床研究を遂行するうえで求められる、高度な倫理観と多職種間のコミュニケーション能力・協調性を習得させる。</p> <p>③ 卒業後の進路:原則として本研究科博士課程(医学履修課程)に進学し、希望する臨床医学分野に所属して臨床研究を実地に行う。博士課程(医学履修課程)修了後は、本研究科臨床医学分野や本大学病院臨床研究推進センターで臨床研究を推進するほか、全国の大学医学部・高次医療センターや研究所などでの活躍が期待される。</p> <p>[公衆衛生・遺伝カウンセリングコース]</p> <p>① 人材養成の目標:日本人類遺伝学会と日本遺伝カウンセリング学会が共同認定する「遺伝カウンセラー」資格を取得させるとともに、この領域における研究者を養成する。</p> <p>② 教育研究上の目的:遺伝カウンセリングに関する最新知識を講義で教育し、遺伝カウンセリングの実践能力を演習で習得させ、研究能力を課題研究で習得させる。遺伝カウンセリングを遂行するうえで求められる、高度な倫理観とコミュニケーション能力・協調性を習得させる。</p> <p>③ 卒業後の進路:認定遺伝カウンセラーの資格を取得し、医療機関などにおいて学会認定遺伝カウンセリングの実務を行うことが期待される。さらに、遺伝カウンセラーのなかでも指導的な立場に立つ者、博士課程に進学して遺伝カウンセリングの教育研究に携わる者も期待される。</p>

既設学部等において養成する人材像		<p>【医科学専攻】</p> <p>①教育・研究・最先端医療を統合して推進し、国際的に通用する優れた研究者並びに高度な医学的知識及び技術並びに豊かな人間性を備えた指導的な医師等の養成を積極的に推進する。</p> <p>②広い視野と医学・医療に関する専門的知識に基づき、研究者の視点で臨床現場の問題を解決し、独創的な研究遂行する能力等を習得させる。</p> <p>③卒業後の進路:医師、大学教員、研究者等として医学・医療分野の発展に貢献している。</p> <p>【保健学専攻】</p> <p>①人間性豊かで幅広い教養と確固たる倫理観を持ち、科学的な知識と技術、総合的な判断力を備えた医療専門職を育成する。特にリサーチマインドを備えた実践者の育成を積極的に推進する。</p> <p>②科学的根拠に基づく看護学・保健学・臨床医学及び医療技術を実践し、他の保健・医療等専門職と協働してチーム医療・チームケアの一員として参加する能力等を習得させる。</p> <p>③卒業後の進路:保健師、看護師、検査技師、国及び自治体行政官等として医療・福祉分野の発展に貢献している。</p>										
新設学部等において取得可能な資格		<p>【公衆衛生・遺伝カウンセリングコース】</p> <p>・認定遺伝カウンセラー</p> <p>① 民間資格（日本遺伝カウンセリング学会と日本人類遺伝学会が共同認定する資格）② 受験資格取得可能</p> <p>③ 修了要件単位に含まれる科目及び関連する科目の履修をもって認定遺伝カウンセラー認定試験の受験資格が得られる。</p>										
既設学部等において取得可能な資格		<p>【遺伝カウンセリングコース】</p> <p>・認定遺伝カウンセラー</p> <p>① 民間資格（日本遺伝カウンセリング学会と日本人類遺伝学会が共同認定する資格）② 受験資格取得可能</p> <p>③ 修了要件単位に含まれる科目及び関連する科目の履修をもって認定遺伝カウンセラー認定試験の受験資格が得られる。</p> <p>【保健師養成コース】</p> <p>・保健師</p> <p>① 国家資格 ②受験資格取得可能</p> <p>③ 修了要件単位に含まれる科目及び関連する科目の履修をもって保健師の受験資格が得られる。</p>										
新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元		助教以上
	医学系研究科 [Graduate School of Medicine]	公衆衛生学専攻 [Master's Program of Public Health]	2	10	-	20	修士 (公衆衛生学)	保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	平成27年 4月	医科学専攻 新規採用	20 7	8 7
									計	27	15	
既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先		助教以上
	医学系研究科		医科学専攻	2	40	-	80	修士(医科学)	医学関係	平成15年 4月	公衆衛生学専攻 医科学専攻	20 121
									計	141	49	
医学系研究科		保健学専攻	2	24	-	48	修士(看護学又は保健学)	保健衛生学関係 (看護学関係)、 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	平成20年 4月	保健学専攻	56	26
									計	56	26	
<p>【備考欄】</p> <p>大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施</p>												

教育課程等の概要(事前伺い)

(医学系研究科公衆衛生学専攻修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			一般コース			講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
			必修	選択	自由												
① 一般コース	共通科目	社会医学入門	1前	1			○			8					兼1	①②③④共通	オンライン
		研究デザイン入門	1前	1			○			1						①②③④共通	
		研究デザイン演習	1後	1				○		11	3	1	8			①②③④共通	
		保健医療概論	1前		1			○		1						①④共通	
		医療倫理学Ⅰ	1後	1				○		1					兼13	①②③④共通	
		社会医学演習	2通	2					○	11	3	1	8				
	小計(6科目)	—	6	1	0				11	3	1	8	0	兼14		—	
	専門科目	分子・遺伝生物学Ⅰ	1前		1			○		1					兼7	①④共通	
		分子・遺伝生物学Ⅱ	1後		1			○			1				兼7	①④共通	
		内科学概論	1前		1			○							兼8	①②④共通	
		外科学概論	1前		1			○							兼12	①②④共通	
		発生・発達・周産期医学概論	1前		1			○							兼8	①②④共通	メディア
	小計(5科目)	—	0	5	0				1	1	0	0	0	兼42		—	
	情報健康医学系科目	疫学概論	1前	1				○		1						①②③④共通	
		臨床研究概論	1前		1			○							兼1	①②③共通	
分子疫学		1後		1			○		1						①③④共通		
感染症アウトブレイク		1後		2			○							兼2	①③共通		
医学統計学入門		1前	2				○		1						①②③④共通		
医学データ解析入門		1後	2				○		1						①②③④共通		
データ管理学Ⅰ		1前	2				○		1						①②③④共通		
データ管理学Ⅱ		1後	2				○		1						①②③共通		
E B M概論		1前	1				○							兼1	①②③共通		
ゲノム統計学		1後	1				○		2					兼1	①③④共通		
遺伝医療学		1前	1				○		1						①④共通		
バイオメディカルゲノム情報解析実習		2前	2					○	1					兼6	①②③④共通		
医学情報学		1後	1				○		1						①②③④共通		
保健医療福祉情報ネットワーク論		1後	1				○		1						①②③④共通		
E B M演習	1後	2					○						兼10	①②③共通			
小計(15科目)	—	3	19	0				9	0	0	0	0	兼18		—		
公共健康医学系科目	医療管理学	1前		1			○		1						①②③共通		
	環境保健医学	1後		1			○		1								
	法医学	1前		1			○		1								
	医療倫理学Ⅱ	1後		1			○		1						①②③共通		
	保健医療福祉行政論	1後		1			○		1						①③共通		
	医療経済学	1後		1			○		1						①②③共通		
	薬事・規制科学	1後		1			○		1						①②③共通		
	産業保健医学	1後		1			○							兼1			
小計(8科目)	—	0	8	0				5	0	0	0	0	兼1		—		
公衆衛生・遺伝カウ ンセリング系科目	基礎人類遺伝学	1前		1			○		1	1				兼2	①④共通		
	ゲノム医学	1前		2			○		3	1				兼2	①④共通		
	小計(2科目)	—	0	3	0				3	1	0	0	0	兼4		—	
フィールド実習	中間審査	1後	2					○	10						①②④共通		
	論文研究	2後	10					○	15	3	1	8	0				
	小計(3科目)	—	12	5	0				15	3	1	8	0				
	コース小計(39科目)	—	21	41	0				15	3	1	8	0	兼80		—	
共通科目	社会医学入門	1前	1				○		8					兼1	①②③④共通	オンライン	
	研究デザイン入門	1前	1				○		1						①②③④共通		
	研究デザイン演習	1後	1					○	11	3	1	8			①②③④共通		
	医療倫理学Ⅰ	1後	1				○		1					兼13	①②③④共通		
	小計(4科目)	—	4	0	0				11	3	1	8	0	兼14		—	
内科学概論	1前		1				○						兼8	①②④共通			

② 高度臨床研究支援・管理者育成コース

専門科目	外科学概論	1前		1		○									兼12	①②④共通	メディア 一部演習 一部メディア
	発生・発達・周産期医学概論	1前		1		○									兼8	①②④共通	
	医療薬学特論	1後		2		※									兼11	②③④共通	
	応用医療薬学特論	1前		2		○				1					兼13	②③④共通	
	小計 (5科目)	—	0	7	0	—				1	0	0	0	0	兼52	—	
情報健康医学系科目	疫学概論	1前		1		○			1						兼1	①②③④共通	—
	臨床研究概論	1前		1		○										①②③共通	
	医学統計学入門	1前	2			○			1						①②③④共通		
	医学データ解析入門	1後		2		○			1						①②③④共通		
	データ管理学Ⅰ	1前		2		○			1						①②③④共通		
	データ管理学Ⅱ	1後		2		○			1						①②③共通		
	E B M概論	1前		1		○									兼1	①②③共通	
	バイオメディカルゲノム情報解析実習	2前		2			○		1						兼6	①②③④共通	
	医学情報学	1後		1		○			1						①②③④共通		
	保健医療福祉情報ネットワーク論	1後		1		○			1						①②③④共通		
E B M演習	1後		2			○								兼10	①②③共通		
小計 (11科目)	—	2	15	0	—			5	0	0	0	0	0	兼16	—		
公共健康医学系科目	医療管理学	1前		1		○			1							①②③共通	—
	医療倫理学Ⅱ	1後		1		○			1						①②③共通		
	医療経済学	1後		1		○			1						①②③共通		
	薬事・規制科学	1後		1		○			1						①②③共通		
	小計 (4科目)	—	0	4	0	—			3	0	0	0	0	0	—		
臨床研究実習Ⅰ	2前	10					○	1								①②④共通 ②③④共通	
中間審査	1後	2				○		15									
課題研究	2後	5				○		15	3	1	8						
小計 (3科目)	—	17	0	0	—			15	3	1	8	0					
コース小計 (27科目)				23	26	0			15	3	1	8	0		兼82		

③ 臨床研究管理医養成1年コース

共通科目	社会医学入門	1前		1		○			8						兼1	①②③④共通	—
	研究デザイン入門	1前		1		○			1							①②③④共通	
	研究デザイン演習	1後		1			○		11	3	1	8			①②③④共通		
	医療倫理学Ⅰ	1後		1		○			1						兼13	①②③④共通	
	小計 (4科目)	—	4	0	0	—			11	3	1	8	0		兼14	—	
専門科目	医療薬学特論	1後		2		※									兼11	②③④共通	一部演習 一部メディア
	応用医療薬学特論	1前		2		○			1						兼13	②③④共通	
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			1	0	0	0	0		兼24	—	
情報健康医学系科目	疫学概論	1前		1		○			1						兼1	①②③④共通	—
	臨床研究概論	1前		1		○										①②③共通	
	分子疫学	1後		1		○			1						①③④共通		
	感染症アウトブレイク	1後		2		○									兼2	①③④共通	
	医学統計学入門	1前	2			○			1						①②③④共通		
	医学データ解析入門	1後		2		○			1						①②③④共通		
	データ管理学Ⅰ	1前		2		○			1						①②③④共通		
	データ管理学Ⅱ	1後		2		○			1						①②③共通		
	臨床研究プロトコール講義	1前	1			○									兼1 兼1	①②③共通	
	臨床研究プロトコール演習	1後	2				○										
	E B M概論	1前		1		○									兼1	①②③共通	
	ゲノム統計学	1後		1		○			2						兼1	①③④共通	
	バイオメディカルゲノム情報解析実習	1前		2			○		1						兼6	①②③④共通	
医学情報学	1後		1		○			1						①②③④共通			
保健医療福祉情報ネットワーク論	1後		1		○			1						①②③④共通			
E B M演習	1後		2			○								兼10	①②③共通		
小計 (16科目)	—	8	16	0	—			8	0	0	0	0	0	兼18	—		
公共健康医学系科目	医療管理学	1前		1		○			1							①②③共通	—
	医療倫理学Ⅱ	1後		1		○			1						①②③共通		
	保健医療福祉行政論	1後		1		○			1						①③共通		
	医療経済学	1後		1		○			1						①②③共通		
	薬事・規制科学	1後		1		○			1						①②③共通		
小計 (5科目)	—	0	5	0	—			3	0	0	0	0	0	—			
臨床研究実習Ⅱ	1後	10					○	1								②③④共通	
課題研究	1後	5				○		15	3	1	8						
小計 (2科目)	—	15	0	0	—			15	3	1	8	0					

コース小計 (29科目)		27	25	0			15	3	1	8	0	兼56	
共通科目	社会医学入門	1前	1			○	8					兼1	①②③④共通 オムニバス
	研究デザイン入門	1前	1			○	1						①②③④共通
	研究デザイン演習	1後	1			○	11	3	1	8			①②③④共通
	保健医療概論	1前		1		○	1						①④共通
	医療倫理学Ⅰ	1後	1			○	1					兼13	①②③④共通
	基礎医学Ⅰ	1前		1		○						兼2	
	基礎医学Ⅱ	1前		1		○						兼2	
	基礎医学Ⅲ	1前		1		○						兼8	
	基礎医学Ⅳ	1前		1		○						兼8	
	小計 (9科目)	—	4	5	0		—	11	3	1	8	0	兼34
専門科目	分子・遺伝生物学Ⅰ	1前		1		○	1					兼7	①④共通
	分子・遺伝生物学Ⅱ	1後		1		○		1				兼7	①④共通
	免疫科学	1前		1		○						兼4	メディア
	神経科学	1後		1		○						兼10	一部メディア
	内科学概論	1前		1		○						兼8	①②④共通
	外科学概論	1前		1		○						兼12	①②④共通
	発生・発達・周産期医学概論	1前		1		○						兼8	①②④共通 メディア
	医療薬学特論	1後		2		※						兼11	②③④共通 一部演習 一部メディア
	応用医療薬学特論	1前		2		○	1					兼13	②③④共通
	がん科学	1後		1		○						兼12	
	先進医学通論	1後		1		○						兼11	
小計 (11科目)	—	0	13	0		—	2	1	0	0	0	兼98	—
情報健康医学系科目	疫学概論	1前		1		○	1						①②③④共通
	分子疫学	1後		1		○	1						①②④共通
	医学統計学入門	1前		2		○	1						①②③④共通
	医学データ解析入門	1後		2		○	1						①②③④共通
	データ管理学Ⅰ	1前		2		○	1						①②③④共通
	ゲノム統計学	1後		1		○	2					兼1	①③④共通
	遺伝医療学	1前		1		○	1						①④共通
	バイオメディカルゲノム情報解析実習	2前		2		○	1					兼6	①②③④共通
	医学情報学	1後		1		○	1						①②③④共通
	保健医療福祉情報ネットワーク論	1後		1		○	1						①②③④共通
小計 (17科目)	—	0	14	0		—	9	0	0	0	0	兼7	—
公衆衛生・遺伝カウンセリング系科目	基礎人類遺伝学	1前	2			○	1	1				兼2	①④共通
	ゲノム医学	1前		2		○	3	1				兼2	①④共通
	遺伝カウンセリング概論	1前	2			○	1						
	臨床遺伝学Ⅰ	1後	1			○	1	1		1		兼4	
	臨床遺伝学Ⅱ	2前		1		※	1					兼1	一部演習
	遺伝カウンセリング演習	1後	2			○	1					兼1	
	遺伝カウンセリング実践論	2前	2			※	1						一部演習
小計 (7科目)	—	9	3	0		—	3	1	0	1	0	兼10	—
遺伝カウンセリング実習Ⅰ	2前	10				○	1						
中間審査	1後	2				○	15						①②④共通
課題研究	2後	5				○	15	3	1	8			②③④共通
小計 (3科目)	—	17	0	0		—	15	3	1	8			
コース小計 (47科目)			30	35	0		15	3	1	8		兼149	
合計 (60科目)		—				—	15	3	1	8	0	兼158	—
学位又は称号	修士 (公衆衛生学)	学位又は学科の分野					保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)						

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

1. 設置の背景

(1) 多様化・複雑化する健康問題への対応

世界に例を見ない勢いで少子高齢化が進む日本において、国民の健康レベルをさらに増進させることは、社会的な活力の維持という点でも社会保障負担の適正化という点でも欠かせない課題であるが、昨今の生活様式の欧米化に伴う肥満者及び糖尿病や腎不全等の合併症を有する患者の増加、経済活動の停滞や雇用環境の不安定化による所得格差に起因する生活習慣や健康状態の格差、高齢人口の増加に伴う要介護高齢者や認知症高齢者の急増、地球環境の急速な変化や汚染、食の安全・安心をめぐる問題の深刻化等、現代日本の抱える健康問題は、従来とは比べものにならないほど多様化・複雑化しており、公衆衛生関連領域において国際レベルの高度な専門性をもった人材を養成することが喫緊の課題となっているところである。

(2) 高度な臨床研究を推進する人材不足とその対応

近年、EBM(Evidence-based medicine)という考え方が臨床医療における世界標準となっている。EBMとは、あらゆる臨床上の意思決定に科学的な根拠(エビデンス)を求めるものであり、そのエビデンスは(動物実験ではなく)患者を対象とする臨床研究により得られる。その基盤となる学問領域は、臨床疫学、医学統計学、医学情報学などである。

そこで欧米では、医師がEBMの技法を習得して臨床研究を実施し、さまざまな医療関連職種の方が臨床研究を推進する人材(リサーチ・アドミニストレーター、データ・マネジャー、臨床研究コーディネーターなど)となっている。一方、わが国では、臨床研究を主導できる医師も臨床研究を推進する人材も不足しているため、臨床研究の進展に支障を来している。そこで、これらの人材を大量に養成することが急務となっている。

なお、これらの人材を早急に養成することが医薬品産業などの成長戦略の面でも喫緊の課題であることは、政府の「健康・医療戦略(平成25年6月14日)」でも「国際水準の質の高い臨床研究・治験実施が確実に実施される仕組みの構築」という章において、「臨床研究・知見の効率的・効果的な推進のため以下の人材を育成確保する」として、「i 臨床研究を支援する人材(臨床研究コーディネーター(CRC)、データ・マネジャー(DM)、生物統計家、プロジェクトマネジャー等)」や「iii 臨床研究において主導的な役割を果たす専門的な医師」などが明記されているところである。

(3) ゲノム科学の急速な進歩と公衆衛生学上の対応

近年の急速なゲノム科学の発展に伴って、遺伝医療の関与する領域は、狭義の遺伝疾患から高血圧や糖尿病などの生活習慣をベースとする「ありふれた疾患」にまで広がっている。また、個別化予防・個別化医療の実現を目指して、世界中で研究が行われている。具体的には、ゲノム・データと生活習慣などの要因を組み合わせることにより疾病の発生リスクを個人別に予測してオーダーメイドの疾病予防策を講じるものが個別化予防であり、ゲノム・データと臨床データを組み合わせることにより各個人にとって最適な治療方法を提示するものが個別化予防・個別化治療である。この試みは始まったばかりであるが、次世代の保健医療の在り方として各方面から期待されている。その手法を開発するための研究者と、その実施に当たって必要となる人材(遺伝カウンセラーの機能と健康教育者の機能を併せ持つ人材)の養成が必要となっている。

さらに、「個別化予防」が進展し、ゲノムに基づき疾病の発生確率が予測できると生命保険(疾病保険等を含む)の在り方や男女の恋愛・結婚行動、ひいては社会全体の在り方にも影響が及ぶものと考えられるほか、これらゲノム科学の最新の知見を国民が正しく理解するためには、このような問題について科学的な研究に基づく提言・実践を行うことができる研究者・指導者を養成することが、急速に進歩するゲノム科学の果実を個人と社会が享受する上で欠かせない。加えて、東日本大震災を契機に復興支援事業の一環として平成23年度に東北大学(以下「本学」という。)に東北メディカル・メガバンク機構が設置されたが、同機構は、15万人規模の住民コホートを立ち上げて、血液検体などの採取とアンケート調査を実施し、検体をもとにゲノム解析などを行うとともに長期保存してバンクキングを行い、さらに対象住民の健康状態や生存状況などを長期追跡することとしている。この大規模な疫学研究を実施するには、疫学者、生物統計学者、研究コーディネーターなどが相当数必要となるほか、ゲノム研究を推進するうえでは、研究参加にあたってのインフォームド・コンセントを習得する人材(遺伝学研究コーディネーター)や開示された遺伝情報について研究参加者の相談に対応する遺伝カウンセラーも不可欠であり、復興支援を強力に推進する上で大きな役割と期待を担っている。

2. 設置の必要性

(1) 公衆衛生大学院の必要性

公衆衛生大学院は、欧米を中心に整備されている。たとえば、米国の公衆衛生教育協議会(Council on Education for Public Health)によると、平成25年時点で、米国では51の公衆衛生大学院があり、約1万人が入学している。ヨーロッパでは、イギリス、ドイツ、北欧などで公衆衛生大学院が設置され、アジアでは、韓国(ソウル国立大学)、タイ(マヒドン大学)、シンガポール(シンガポール国立大学)に公衆衛生大学院が設置されている。

また、わが国では平成12年に京都大学大学院医学研究科に設置された社会健康医学系専攻が最初の公衆衛生大学院であり、それ以降、九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻、東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻、帝京大学公衆衛生学研究科、筑波大学人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻公衆衛生コース、大阪大学医学系研究科医科学専攻公衆衛生コース、長崎大学国際健康開発研究科が設置され、修了者には修士(公衆衛生学)又は公衆衛生学修士(専門職)が授与されている。学生の修学ニーズの大きさを反映して全体的に入学定員に比して志願者数が多い傾向にあるが、東北地方においては未だ公衆衛生大学院が設置されていない。

この点、日本学術会議が、提言「わが国の公衆衛生向上に向けた公衆衛生大学院の活用と機能強化(平成23年9月27日発表)」において、「国(文部科学省、厚生労働省など)は、公衆衛生大学院が全国のいわゆる8地方ブロックに少なくとも1か所以上整備されるよう大学等に支援を行うとともに、自治体と協同して、それぞれの地域において公衆衛生人材養成に向けて協力体制を構築することが望まれる」としていることも考慮すると東北地方における基幹大学として本学が、公衆衛生学関連の最も充実した教員組織を備えていることに加え、臨床研究中核病院(全国で10病院、東北地区で唯一)に指定されている大学病院を有し、臨床研究管理医の養成に

において最も充実した実習環境を有しておりかつ、地域医療情報のICT化、地域住民の長期健康調査事業など大規模な事業等を行っている東北メディカル・メガバンク機構において、分子疫学やゲノム統計学に関する教育研究フィールドが整備されている本学において公衆衛生大学院を設置することは急務と言える。

また、東北地方の中規模以上の医療機関の長、全国の行政機関（都道府県・政令市の衛生行政担当者、国・地方の各レベルの衛生部長官）、企業（医薬品企業、医療機器関連業、保健医療福祉関連コンサルタント会社、報道機関等）を対象としたニーズ調査の結果からも、本学の公衆衛生大学院に対する社会の期待の大きさが表れており、本学に公衆衛生大学院を設置する必要性を裏付けるものである。

3. 教育研究上の使命・目的

本学は、本研究科に公衆衛生大学院として本専攻の設置を構想しているが、本専攻においては、本研究科のミッションである「日本及び世界の人人々の健康及び福祉の増進に寄与することのできる、優れた研究者や指導者、実践者を育成する」ことについて、公衆衛生学の立場から貢献することを使命とし、特に公衆衛生領域の専門職種よりも公衆衛生学における最先端の融合的研究者の養成に重点を置く予定である。

また、このような使命を果たすため、世界最高水準の公衆衛生学の教育研究拠点を形成することにより、公衆衛生の素養、すなわち「社会環境の視点から個人の健康問題を把握してその解決にあたるスキルを有すること、個人と社会におけるより良い健康の実現に貢献しようとする使命感を有すること」を共通基盤的な素養として有するとともに、国際レベルの高度な専門性及び高い職業的倫理観を有する研究者をはじめ、指導者及び実践者を養成することを教育研究上の目的としている。

4. 人材養成の具体像と人材需要の見通し

本専攻は、上述の教育研究上の使命と目的に則って、具体的には以下のような人材を養成する。

(1) 公衆衛生の研究と実践を推進する人材

- ① 公衆衛生領域の研究者
- ② 公衆衛生上の立案と評価に関わる高度専門職（国や自治体の公衆衛生関連行政官・公衆衛生医師、企業やシンクタンク（コンサルテーション機関）などの専門職）

「一般コース」を修了した者では、公衆衛生学とその関連学問の教育研究に携わる他、国や自治体（保健所など）での公衆衛生行政、企業での健康管理、医療保険団体（国民健康保険中央会、各都道府県での国民健康保険団体連合会、健康保険組合連合会や各企業における健康保険組合など）における医療費分析、さらに保健医療関連のシンクタンク（コンサルテーション機関）などにおける分析・企画などの分野での活躍が期待される。

(2) 臨床研究を推進する人材

- ① 臨床研究・臨床試験を主導・管理する医師・歯科医師・研究者
- ② 生物統計学者（臨床研究の企画、研究の質の評価、統計解析などを行う）
- ③ 高度臨床研究支援・管理者（リサーチ・アドミニストレーター、データ・マネジャー、臨床研究コーディネーターなど）

「臨床研究管理医養成1年コース」を修了した医師・歯科医師は、医科学専攻博士課程に進学して所属する臨床医学講座における臨床研究の推進に貢献する他、大学病院臨床研究推進センターにおいて中核的役割を担うこと等が期待される。わが国においては、臨床研究を主導する医師・研究者に対する系統的な教育（プロトコル作成、研究チームの組織化、データ管理、研究倫理など）が十分に行われているとは言い難く、それが臨床研究をめぐる昨今の不祥事・問題の一因ともなっている。これらを教育する際に現行の医学履修課程によるプログラムでは限界があり、むしろ本専攻・臨床医学講座・臨床研究推進センターの三者が共同で体系的なプログラムのもとに教育する体制を確立することが不可欠である。本学大学病院は臨床研究中核病院（全国で10カ所、東北で唯一）の指定を厚生労働省より受け、本学は未来医療研究人材養成拠点「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」（全国で15件、東北で唯一）に文部科学省より選定されるなど、臨床研究管理医を養成するための資源を多く有する。本専攻で後述の「臨床研究管理医養成1年コース」を設置することにより、わが国の臨床研究をリードする医師・研究者の養成拠点とするものである。臨床研究の理論と実務に精通し、研究プロトコルを独力で作成できる医師・研究者を早急に育成することが急務であると、前述の「健康・医療戦略」で強調されているように、今後この種の医師に対する需要が急速に高まることが予想されている。本専攻「臨床研究管理医養成1年コース」を修了した医師が本研究科臨床医学講座のみならず全国の大学医学部・高次医療センターや研究所で強く求められる人材となることは疑う余地のないことである。

「高度臨床研究支援・管理者育成コース」を修了した者は、データ・マネジャー、プロジェクトマネジャー、薬事専門家として高度な専門性にに基づき、製薬企業や医療機関、臨床試験支援機関（Clinical Research Organization: CRO）、薬事関連機関（独立行政法人医薬品医療機器総合機構: PMDA）などにおいて、臨床研究を支援することが期待される。さらに医科学専攻博士課程に進学して高度な教育と研究を経て、この領域における教育研究をリードする者も期待される。上述の「健康・医療戦略」においても、これら職種の育成強化とともにキャリアパス整備の方向性を打ち出していることから、今後、これらの職種を志望する者も増えることが期待される。本研究科で平成24年度に設置された「高度臨床研究支援者育成コース」は、東北地方で唯一のコースであり、その修了生は製薬企業やPMDAなどに就職している実績がある。本専攻の設置により、同コースを「高度臨床研究支援・管理者育成コース」と名称変更し、公衆衛生の素養や管理運営に関する知識（公衆衛生学・医療管理学・医療倫理学など）に関する授業科目を増やすとともに大学病院臨床研究推進センターとの連携を強化することなどにより、同コースの教育内容のさらなる充実を図り、わが国の臨床研究を推進する人材の養成拠点とするものである。

(3) ゲノム科学と公衆衛生学の融合・発展を推進する人材

- ① ゲノム疫学研究者
- ② 生物統計学者（ゲノム情報に関する統計解析を実施し、その方法論を進歩させる）

③ 認定遺伝カウンセラー

④ ゲノム科学が社会や医療に及ぼす影響などに関する研究者（医療倫理学・医療政策学）

「一般コース」を修了した者のうち、ゲノム疫学者や生物統計学者として教育研究機関や医療機関、民間検査機関においてゲノム解析を実施する人材の輩出が期待される。さらに医科学専攻博士課程に進学して高度な教育と研究を経て、上述の個別化予防・個別化医療に貢献することが期待される。また、「一般コース」を修了した者のうち、ゲノム科学が社会や医療に及ぼす影響などに関する研究を行う人材の輩出も期待される。具体的には医療倫理学や公衆衛生学の研究者であり、その活躍の場は教育研究機関だけでなく、医療機関や行政機関、さらにマスメディアなども考えられる。

また、「公衆衛生・遺伝カウンセリングコース」を修了した者は認定遺伝カウンセラーの資格を取得し、医療機関などにおいて遺伝カウンセリングの実務を行う。本コースは東北地方における唯一の認定遺伝カウンセラー養成コースであるため、東北地方の医療機関に広く人材を供給するだけでなく、遺伝カウンセラーのなかでも指導的な立場に立つ者や遺伝カウンセリングの教育研究に携わる者も期待される。

II 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程編成の考え方

本専攻は、本研究科のミッションである「日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進に寄与することのできる、優れた研究者や指導者、実践者を育成する」ことについて、公衆衛生学の立場から貢献することを使命として教育研究を行う。そこで、本研究科の医科学専攻修士課程で社会医学講座等が担ってきた教育課程を発展的に継承し、さらに本研究科や大学病院、東北メディカル・メガバンク機構などにおける公衆衛生学関連分野との連携を強化することにより、公衆衛生の素養という共通基盤に立ったうえで国際レベルの高度な専門性及び高い職業的倫理観を有する研究者をはじめ、指導者及び実践者を養成する。

そのため、本研究科医科学専攻社会医学講座7分野と同発生・発達医学講座遺伝病学分野をもって本専攻を設置する。それに伴って、本研究科医科学専攻修士課程に置かれている「高度臨床研究支援者育成コース」と「遺伝カウンセリングコース」を、それぞれ「高度臨床研究支援・管理者育成コース」と「公衆衛生・遺伝カウンセリングコース」に名称変更して、本専攻に移動させる。これら2コースを本専攻に移動し、さらに従来のコース名称から変更させる理由を以下に述べる。

現行の「高度臨床研究支援者育成コース」では、これまで主に臨床研究を支援するための統計学やデータ管理学などに関する教育に主眼が置かれていたが、本専攻に移動させることにより、従来の教育に加えて臨床研究に関わる組織（患者・スタッフ間・社会などとの関係）や情報処理（統計解析、研究成果の社会還元のあるり方）などのさまざまな点における管理運営能力についても習得させることを目指すものである。これら管理運営能力に関する教育は、公衆衛生学関連領域（公衆衛生学・医療管理学・医療倫理学など）で主に行われていることを考慮して、医科学専攻から本専攻へ移動させるものである。以上の趣旨を明確にするため、従来のコース名称に「管理」を加えて「高度臨床研究支援・管理者育成コース」と変更する。

現行の「遺伝カウンセリングコース」では、単一因子による（希少な）遺伝疾患を主な対象として教育が行われている。しかし最近では、がんや循環器疾患などのありふれた疾患を対象に、多因子遺伝（体質）と環境因子（生活習慣など）との相互作用のもとで疾患の発症を予測して予防する取り組み（個別化予防・先制医療）が重視され、多因子の遺伝要因と生活習慣・行動要因との相互作用に基づいて、個々人の発症リスクを予測したうえで遺伝カウンセリングを行うことが必要となっており、今後もこの傾向はますます強まることが予想される。また、これを行うには公衆衛生学関連領域の学識が必須であることを考慮して、医科学専攻から本専攻へ移動させるものである。以上の趣旨を明確にし、公衆衛生学の要素を加えた遺伝カウンセリングであることを示すため、従来のコース名称に「公衆衛生」を加えて「公衆衛生・遺伝カウンセリングコース」と変更する。

また、臨床研究を主導・管理できる医師・歯科医師の養成を目的として、「臨床研究管理医養成1年コース」を新設する。これは、単に臨床研究の実施に精通した医師・歯科医師を養成するだけでなく、臨床研究のシステム管理（研究デザインの作成、研究組織のマネジメントとコミュニケーション、データの収集管理と精度管理、研究成果の社会還元・コミュニケーションなど）についても精通させることを目指す。これら管理運営能力に関する教育は、公衆衛生学関連領域（公衆衛生学・医療管理学・医療倫理学など）で主に行われていることを考慮して、本コースを本専攻に設置するものである。

なお、上記の3コースについて公衆衛生の素養という点で共通する人材養成目的を有しながら、名称上において「公衆衛生」と「管理」を使い分けている理由は以下のとおりである、すなわち、「高度臨床研究支援・管理者育成コース」及び「臨床研究管理医養成1年コース」では、医療管理学の要素の強い、公共健康医学系科目を選択履修できることになっている一方、「公衆衛生・遺伝カウンセリングコース」では、公共健康医学系科目は選択科目としておらず、公衆衛生学の要素を取り入れた遺伝カウンセラーの養成を目指すものの「管理」の要素は少ない。また、臨床研究に関わる医師や高度支援者には臨床研究システム（多職種人材よりなる研究組織や研究スケジュールなど）を管理運営するスキルが求められる一方で、認定遺伝カウンセラーは患者・家族と主治医との間で主に業務を遂行するものであり、システム自体の管理運営までは求められていない。このような趣旨の違いを明確にするため、以上のコース名とした。

(1) 講座・分野の編成

本専攻が目指す人材を養成するために、2講座（情報健康医学と公共健康医学）を置き、各講座に4分野を配置する。

情報健康医学講座は、公衆衛生学分野、医学統計学分野、医学情報学分野、遺伝医療学分野（上述「遺伝病学分野」より改組）の4分野で構成される。公共健康医学講座は、医療管理学分野、環境保健医学分野、法医学分野、医療倫理学分野の4分野で構成される。

なお、上記の各分野教授によるオムニバス形式で社会医学入門の講義が行われる。さらに、本研究科医科学専攻、大学病院臨床研究推進センター、東北メディカル・メガバンク機構の関連分野からも協力を得て、教育課程を編成する。

(2) 教育コースの編成

本専攻が目指す人材を養成するために、以下の4つのコースを設ける。

① 一般コース：本専攻の基本となるコースである。学生は本専攻8分野のいずれかに所属したうえで、疫学・医学統計学及び医療倫

理学などの「公衆衛生の素養」に関わる必修科目を履修し、さらに所属分野に関連するカリキュラムを中心に修学する。

② 高度臨床研究支援・管理者育成コース：臨床研究を支えるデータ・マネジャー、プロジェクトマネジャー、薬事専門家、IT 専門家などを養成するためのコースである。入学者は原則として医学統計学分野に所属し、大学病院臨床研究推進センターなどでの実習を含めた実践的な教育を受ける。従来は本研究科医科学専攻修士課程に置かれていたが、本専攻の設置に伴って移動させるものである。

③ 臨床研究管理医養成 1 年コース：医師・歯科医師を対象に、臨床研究を主導できるスキルを身に付けさせることを目的として、1 年間のコースを提供する。入学者は原則として公衆衛生学分野に所属するとともに、希望する臨床分野の指導のもとで臨床研究のプロトコールを作成する。

④ 公衆衛生・遺伝カウンセリングコース：認定遺伝カウンセラー（CGC: Certified Genetic Counselor、学会認定資格）を養成するためのコースである。入学者は原則として遺伝医療学分野に所属し、学会認定カリキュラムを履修するとともに、公衆衛生に関する幅広い知識を身に付けることが求められる。従来は本研究科医科学専攻修士課程に置かれていたが、上記の理由により本専攻の設置に伴って移動させるものである。

2. 教育課程編成の特色と内容

(1) 教育課程編成の特色

教育課程の編成にあたって以下の点を特色とする。

① 集学的アプローチによる教育体制

本学では、従来からある社会医学講座の他にも、公衆衛生関連領域の教育研究が行われている。たとえば、本研究科医科学専攻の微生物学・循環器内科学・産業保健医学の各分野は、それぞれ感染症の疫学・循環器疾患の疫学・産業保健に関する教育研究を活発に行っている。また、東北メディカル・メガバンク機構においてはゲノム・コホートの構築に取り組んでいることから、分子疫学やゲノム統計学に関する教育研究を活発に行っているほか、大学病院の臨床研究推進センターにおいてはプロトコール作成や臨床研究の遂行・支援に関する教育研究を活発に行っている。さらに、災害科学国際研究所においては災害公衆衛生学分野が災害時における公衆衛生のあり方に関する教育研究を活発に行っている。

そこで本専攻では、専任 8 分野に加えて、医科学専攻、東北メディカル・メガバンク機構、大学病院臨床研究推進センター、災害科学国際研究所の各関連分野を協力分野として講義及び実習指導・研究指導を行うことにより、集学的な教育を実施する。

② 実践的な教育

講義においても、教育と学生との対面により行われる講義ではできるだけ少人数のクラスとし、学生発表やディスカッションを重視することにより学生の知的能動性と思考力、発表技術を伸ばすことを目指す。一般コースでは社会医学演習を必修科目とし、所属分野の専任教員の指導のもとで実践的な研究能力の涵養に努める。

また、東北メディカル・メガバンク機構、大学病院の臨床研究推進センターや診療科において実習の機会を提供することにより、それぞれの領域の研究遂行の実地を学ばせる。

③ 医師・歯科医師を対象を特化したコースの設置

上述の通り、わが国では臨床研究を主導できる医師が不足しているという問題が深刻となっている。そこで、臨床研修を終えた医師・歯科医師を対象を特化して、1 年で修士号を取得するコースを設置する。このコースを修了後、博士課程医学履修課程（臨床系の分野）への進学が想定されるが、修士課程在学中に将来志望する臨床分野の教員などと連絡を取り合って博士課程において行うべき臨床研究のプロトコール作成を行わせる。

臨床研究の教育を重視するプログラムは、わが国の既存の公衆衛生大学院でもいくつかあるが、1 年コースでしかも臨床分野との共同を前提とするものは他にない。

④ 保健医療の初学者に対する教育上の配慮

これまでの社会医学講座等における受入実績から、本専攻を志望する者の過半数が医師・歯科医師以外の保健医療の初学者と想定されるが、この場合、公衆衛生学の基礎となる医学・医療に関する学識を獲得させることが不可欠である。そこで、本研究科の医科学専攻修士課程と本専攻との共同により共通選択科目と専門科目を設け、各学生の経験・目標に応じて選択履修できるようにする。

また、保健医療に関する知識・経験のない者を対象に、保健医療概論を開講し、保健医療の現状（制度論、チーム医療、患者の権利など）について学習させる。

⑤ 国際化への対応

留学生が授業に参加しやすいように、英語によるクラスを順次増やしていくとともに、ISTU (Internet School of Tohoku University、東北大学インターネットスクール) では同じ科目について日本語版と英語版の双方を作成する。

また、本専攻の教育内容や指導教員等の教育研究内容などに関する情報を本研究科ホームページに英語で掲載し、入学者選抜では試験科目のすべてを日本語と英語の両方で出題し、面接も英語で対応することにより、外国からの受験者を増やすように努める。

さらに、本研究科の国際交流支援室と共同して、本研究科と関係のある国外の教育研究機関・保健医療機関などへの情報提供を強化する。

(2) 教育科目の内容

教育課程表（科目区分、コース区分、授業科目名、配当年次、単位数、履修区分（必修・選択・自由）、授業形態（講義・演習・実習）、修了要件など）は上述のとおりである。

以下に、各科目群の概要を述べる。

① 共通必修科目群

すべての学生に公衆衛生の素養と公衆衛生の専門家としての高い職業的倫理観を身に付けさせるため、社会医学入門、研究デザイン入門、研究デザイン演習、医療倫理学 I の 4 科目を必修とする。

② 共通選択科目群

共通選択科目群は、基礎医学と臨床医学に関する初級レベルの講義を行うものである。一般コースと公衆衛生・遺伝カウンセリングコースの学生を対象とし、医科学専攻との連携により合同で受講できる科目が含まれる。また、保健医療に関する知識・経験のない者を対象に、保健医療概論を開講し、保健医療の現状（制度論、チーム医療、患者の権利など）について学習させる。

③ 専門科目群

専門科目は、基礎医学と臨床医学、医療関連薬学に関する中級レベルの講義を行うものである。医科学専攻との連携により合同で受講できる科目である。

④ 情報健康医学系科目群

情報健康医学講座に属する4専任分野を中心に科目を編成する。

疫学科目は公衆衛生学分野を中心に編成される。具体的には、疫学の基本（疫学概論）から最近注目されている領域（感染症アウトブレイク）まで広く網羅する。近年、保健医療における世界的なスタンダードとなった「根拠に基づく医学（EBM）」について講義と演習を行う。臨床研究管理医養成1年コースで、臨床研究プロトコルの作成に関する講義と演習を行う。

医学統計学科目は医学統計学分野を中心に編成される。具体的には、初級レベル（医学統計学入門）と中級レベル（医学データ解析入門）の講義を行う。さらに実践的な見地からデータ管理学を講義して、データの収集と管理、そして解析に至るプロセスを解説する。

医療情報学科目は医学情報学分野を中心に編成される。具体的には、医学情報学概論と保健医療福祉情報ネットワークについて講義を行う。

遺伝医療学科目は遺伝医療学分野を中心に編成される。具体的には、遺伝医療学概論について講義を行う。

⑤ 公共健康医学系科目群

公共健康医学講座に属する4専任分野を中心に科目を編成する。

医療管理学科目は医療管理学分野を中心に編成される。具体的には、医療管理学の概論に加えて、保健医療福祉行政や医療経済、薬事・規制科学に関する講義を行う。

環境保健医学科目は環境保健医学分野を中心に編成される。具体的には、環境保健医学と産業保健医学の概論について講義を行う。

法医学科目は法医学分野を中心に編成される。具体的には、法医学の概論について講義を行う。

医療倫理学科目は医療倫理学分野を中心に編成される。具体的には、医療倫理学IIにおいて保健医療や公衆衛生活動、人間を対象とする研究における倫理上の諸問題について、具体的な事例をもとに実践的に論じる。

⑥ 公衆衛生・遺伝カウンセリング系科目群

「認定遺伝カウンセラー」資格を共同認定している日本遺伝カウンセリング学会と日本人類遺伝学会が定めた「認定遺伝カウンセラーの養成カリキュラム」に沿って科目編成を行った。講義による座学に加えて、ロールプレイを含めた演習、大学病院遺伝外来や宮城県立こども病院総合診療科臨床遺伝外来などでの遺伝医療・遺伝カウンセリングに同席して陪席実習を行う。

⑦ 実習・特別研究科目

本専攻での学習をより実践的なものとするため、公衆衛生領域の現場で実習を行う機会を提供する。一般コースのフィールド実習（5単位）は選択によるものであり、本専攻が認めた機関で実習を行った場合に単位を認定する。たとえば、東北メディカル・メガバンク機構での実習を行う場合、(1) 住民調査に参加して疫学調査の実地を学ぶこと、(2) バイオバンク業務に参加してデータ管理・情報管理の実地を学ぶこと、(3) コホートの追跡業務に参加して保健医療福祉情報ネットワーク運用の実地を学ぶこと、(4) データ解析に参加して分子疫学・ゲノム統計学の実地を学ぶこと、などを想定している。

高度臨床研究支援・管理者育成コースでは臨床研究実習Ⅰ（10単位）、臨床研究管理医養成1年コースでは臨床研究実習Ⅱ（10単位）、公衆衛生・遺伝カウンセリングコースでは遺伝カウンセリング実習（10単位）が必修となる。これらは、大学病院の臨床研究推進センターや診療科において行われ、それぞれ臨床研究業務や遺伝カウンセリング業務の実地を学ばせる。

一般コースでは論文研究によりオリジナリティのある修士論文の提出を必須とする。また、高度臨床研究支援・管理者育成コース、臨床研究管理医養成1年コース及び公衆衛生・遺伝カウンセリングコースでは課題研究とし、臨床研究や遺伝カウンセリングの学問領域を十分に理解・習熟したことを示す成果物（研究プロトコルなど）の提出を必須とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
※指導教員の指導のもとに次の各号で指定する授業科目及び修了単位を修得すること。 1 一般コースの学生は、同コース開設科目の内から、必修科目21単位を含め選択科目から9単位以上修得すること。 2 高度臨床研究支援・管理者育成コースの学生は、同コース開設科目の内から、必修科目23単位を含め選択科目から7単位以上修得すること。 3 臨床研究管理医養成1年コースの学生は、同コース開設科目の内から、必修科目27単位を含め選択科目から3単位以上修得すること。 4 公衆衛生・遺伝カウンセリングコースの学生は、同コース開設科目の内から、学位取得に必要な必修科目30単位以上を修得するとともに、認定遺伝カウンセラーの受験資格に関連する単位を修得すること。なお、医療関連職種の資格を有していない者には、保健医療の基礎的な内容を学ぶ科目を履修するよう指導する。 5 臨床研究管理医養成1年コース学生は、2年次に開講予定としている授業科目を1年次に履修できるものとする。課題研究についても1年次後期に行う。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要 (事前伺い)

(医学系研究科保健学専攻博士前期2年の課程) (既設)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
① 共通選択科目	看護学研究方法論	1前		2		※			2							一部演習	
	看護学研究のための統計学	1前		2		※			1							一部演習	
	看護倫理	1前		2		○			1								
	理論看護学アプローチ	1前		2		○			1								
	医療教育論	1後		2		※				1						一部演習	
	医療・看護政策論	1後		2		○			1	1			1				
	がん科学	1前		2		○			1		1					メディア	
	がん診療トレーニング	1後		2				○	1				1				
	先端放射線科学概論	1通		2		○			7	1	2	3				一部メディア	
	検査医学概論	1通		2		○			7	3			7			一部メディア	
	災害医学概論	1前・後		2		○										兼15 兼2	
	医用動物学	1・2前		1		※			1							兼5 兼1	
	分子・遺伝生物学 I	1前		1		○			3							①⑥⑦共通	
	医学統計学入門	1・2前		2		○										兼1	
	医学データ解析入門	1・2後		2				※								兼1	
小計(15科目)			0	28	0				19	6	3	12	0		兼23		
② 特別研究科目	論文研究	2通	10						26							②⑥⑦共通	
	課題研究	2通		5					2								
	小計(2科目)		10	5	0				26	0	0	0	0				
③ 看護学コース	基礎・健康開発看護学領域	看護アセスメント学特論 I	1前	2		※			1		1					一部演習	
		看護アセスメント学特論 II	1前	2		※			1		1					一部演習	
		看護アセスメント学セミナー	2前	4			○			1		1					
		看護教育・管理学特論 I	1前	2		※				1							一部演習
		看護教育・管理学特論 II	1後	2		※				1							一部演習
		看護教育・管理学特論セミナー	2前	4			○			1							
		老年保健看護学特論	1通	2			○					1					兼1
		老年リハビリテーション看護学特論	1通	2			○					1					兼1
		老年保健看護学セミナー	2前	4								1					
		地域ケアシステム看護学特論 I	1前	2			○			1	1			1			
		地域ケアシステム看護学特論 II	1後	2			○			1	1			1			
		地域ケアシステム看護学セミナー	2通	4			○			1	1			1			
		地域保健学セミナー	2通	4						1							
		公衆衛生看護学特論 I	1前	2			※			1				1			一部演習
		公衆衛生看護学特論 II	1後	2			※			1				1			一部演習
		公衆衛生看護学セミナー	2通	4					○	1				1			
	小計(16科目)		0	44	0				5	1	3	2	0			兼1	
	(保健師必修科目)	公衆衛生看護学原論	1前		2		○			1				1			
		公衆衛生看護学活動論 I	1前		2				○	2	1			2			
		公衆衛生看護学活動論 II	1後		4				○	2	1			2			
		地域ケアシステム看護学活動論 I	1前		4				○	2	1			2			
		地域ケアシステム看護学活動論 II	1後		4				○	2	1			2			
		疫学	1前		2				○	1							
		保健統計学	1後		2				○	1							
		保健医療福祉行政特論	1後		3				○	2							
		公衆衛生看護学実習 I	1後		2					2	1			2			
		公衆衛生看護学実習 II	1後・2前		2					2	1			2			兼3
		地域ケアシステム看護学実習 I	1後・2前		3					2	1			2			兼1
		地域ケアシステム看護学実習 II	1後・2前		3					2	1			2			兼1
	小計(12科目)		0	33	0				3	1	0	2	0			兼4	
	(保健師選択科目)	公共哲学	1後		2				○								兼1
		社会システム論	1前		2				○								兼1
		環境保健論	1通		2				○		1						
災害メンタルヘルス論		1通		2				○								兼1	
小計(4科目)			0	8	0				1	0	0	0	0			兼3	
③ 看護学コース	コンサルテーション論	1後		2				○	1	1	1	1				兼7	
	臨床薬理学	1前		2				○	1		1					メディア	
	フィジカルアセスメント	1前		2				○	1								
	病態生理学	1前		2				○	2							兼6	
	がん看護学特論 I	1前		2		※			1							一部演習	
	がん看護学特論 II	1後		2		※			1							一部演習	
	がん看護学セミナー I	2前		2				○	1							兼1	
	がん看護学セミナー II	2後		2				○	1		1	1				兼2 兼1	
	緩和ケア看護学特論 I	1前		2		※			1							一部演習	
	緩和ケア看護学特論 II	1後		2		※			1							一部演習	
	緩和ケアトレーニング	1後		1					1							兼2	
	緩和ケア看護学セミナー I	1前		2				○	1				1			兼2	

	家族支援看護学領域	緩和ケア看護学セミナーⅡ	1後		2			○		1			1	兼1 兼5 兼3 兼1 兼3 兼3 兼2	一部演習 一部演習				
		がん看護専門看護学実習Ⅰ	2前		2			○		1			1						
		がん看護専門看護学実習Ⅱ	2後		4					○	2					1			
		がん看護専門看護学実習Ⅲ	2前		2				○		1								
		小児看護学特論Ⅰ	1前		2			※			1								
		小児看護学特論Ⅱ	1前		2			※			1								
		小児看護学セミナーⅠ	2通		4				○		1					1			
		小児看護学セミナーⅡ	2後		2				○		1					1			
		小児看護学セミナーⅢ	1後		2				○		1					1			
		小児専門看護学実習Ⅰ	2前		2					○	1					1			
		小児専門看護学実習Ⅱ	2通		8					○	1					1			
		リエゾン精神看護論	1前		2				○		1								
		家族のメンタルヘルス論	1後		2				○		1		2			1			
		精神保健看護学セミナー	2通		4					○	1					1			
		周産期看護学特論	1前		2			※			1	1							
		周産期メンタルヘルスケア論	1後		2			※			1								
		周産期看護学セミナー	2通		4				○		1	1							
		女性生涯看護学特論Ⅰ	1前		2			※			1								
		女性生涯看護学特論Ⅱ	1後		2			※			1	1							
		ウイメンズヘルス看護学セミナー	2通		4				○		1	1				1			
		小計(32科目)			0	81	0				7	2	4			5	0	兼29	
		専門科目	④放射線技術科学領域	医用情報学セミナーⅠ	1通		4			○		3	1			1	1	④⑥⑦共通	一部演習
医用情報学セミナーⅡ	2通				4			○		3	1	1	1						
医用物理学特論	1通				2			※		1		1							
画像情報学特論Ⅰ	1前				2			※		1									
画像情報学特論Ⅱ	1前				2			※		1									
医用画像工学特論Ⅰ	1・2前				2			※		1									
医用画像工学特論Ⅱ	1・2前				2			※			1								
小計(7科目)				0	18	0			3	1	1	1	0						
生体応用技術科学領域	生体応用科学セミナーⅠ		1通		4				○		4				④⑥⑦共通	一部演習			
	生体応用科学セミナーⅡ		2通		4				○	4									
	画像診断学特論		1前		2					1									
	画像解析学特論Ⅰ		1前		2			○	※	1									
	画像解析学特論Ⅱ		1後		2			※		1									
	放射線検査学特論		1前		2			※		1									
	放射線治療学特論		1前		2			※		1			1						
	画像診断技術トレーニング		1後		4					1	2								
	放射線検査学トレーニング		1後		4					1									
	放射線論文読解演習		1通		2				○	7	1	2	3	2					
	小計(10科目)				0	28	0			7	1	2	3	2			④⑥⑦共通		
専門科目	⑤検査技術科学領域		分子機能解析学セミナーⅠ	1通		4			○		1	1			集中				
			分子機能解析学セミナーⅡ	2通		4			○		1	1							
			分子機能解析学特論	2通		2				○	1	1							
		感染分子病態解析学セミナーⅠ	1通		4				○	1	1								
		感染分子病態解析学セミナーⅡ	2通		4				○	1	1								
		感染分子病態解析学特論	2通		2				○	1	1								
		内分泌応用医科学セミナーⅠ	1通		4				○	1			1						
		内分泌応用医科学セミナーⅡ	2通		4				○	1			1						
		内分泌応用医科学特論	2通		2				○	1			1						
		ゲム医科学・分子生物学実験トレーニング	1通		4					1			1						
		分析化学実験トレーニング	1後		4					1			1						
		感染実験トレーニング	1通		4					1	1								
		ペプチド内分泌実験トレーニング	1通		4					1			1						
		医学論文読解演習A	1・2通		2				○	7	3		7						
	小計(14科目)			0	48	0			7	3		7							
	臨床検査医科学領域	病理検査学セミナーⅠ	1通		4				○		1				集中				
		病理検査学セミナーⅡ	2通		4				○		1								
		病理検査学特論	2通		2				○		1								
		臨床生理検査学セミナーⅠ	1通		4				○		1								
		臨床生理検査学セミナーⅡ	2通		4				○		1								
		臨床生理検査学特論	2通		2				○		1								
		分子血液学セミナーⅠ	1通		4				○		1								
分子血液学セミナーⅡ		2通		4				○		1									
分子血液学特論		2通		2				○		1									
分子内分泌学セミナーⅠ		1通		4				○		1			1						
分子内分泌学セミナーⅡ		2通		4				○		1			1						
分子内分泌学特論	2通		2				○		1			1							
病理診断学トレーニング	1後		4					1											
臨床検査学トレーニング	1通		4					3	1										
医学論文読解演習B	1・2通		2				○	7	3		7								
小計(15科目)			0	50	0			7	3		7								

⑥ 医学物理士養成コース（保健系学部出身者）	医学物理士養成コース科目	医学物理学特論	1・2前	2		○			1			1	⑥⑦共通	
		力学	1・2前	2		○								兼1
		電磁気学	1・2後	2		○							兼2	
		量子力学	1・2後	2	2	○							兼1	
		原子核物理学	1・2前	2		○							兼1	①⑥⑦共通
		医学統計学入門	1・2前	1		○							兼1	①⑥⑦共通
		医学データ解析入門	1・2後	1			※						兼1	①⑥⑦共通
		医療情報学	1・2後	1	1	○							兼1	⑥⑦共通
		医用情報学セミナーⅠ	1通	4			○		3	1	1	1		④⑥⑦共通
		医用情報学セミナーⅡ	2通	4			○		3	1	1	1		④⑥⑦共通
		医用物理学特論	1通	2		※			1		1			④⑥⑦共通
		画像情報学特論Ⅰ	1前	2		※			1					④⑥⑦共通
		画像情報学特論Ⅱ	1前	2		※			1					④⑥⑦共通
		医用画像工学特論Ⅰ	1・2前	2		※			1					④⑥⑦共通
		医用画像工学特論Ⅱ	1・2前	2		※			1	1				④⑥⑦共通
		生体応用科学セミナーⅠ	1通	4			○		4					④⑥⑦共通
		生体応用科学セミナーⅡ	2通	4			○		4					④⑥⑦共通
		画像診断学特論	1前	2		○			1					④⑥⑦共通
		画像解析学特論Ⅰ	1前	2		※			1					④⑥⑦共通
		画像解析学特論Ⅱ	1後	2		※			1					④⑥⑦共通
		放射線検査学特論	1前	2		※			1					④⑥⑦共通
		放射線治療学特論	1前	2		※			1					④⑥⑦共通
		放射線論文読解演習	1通	2			○		7	1	2	3	2	④⑥⑦共通
		医学物理士トレーニング	1・2後	2				○	1			1		兼1
		論文研究	2通	10			○		26					②⑥⑦共通
		小計(25科目)	—	22	41	0	—		26	1	2	3	2	兼8
⑦ 医学物理士養成コース（理工系学部出身者）	医学物理士養成コース科目	医学物理学特論	1・2前	1		○			1			1	⑥⑦共通	
		放射線物理学	1後	2		○			1					兼1
		放射線防護学	1・2前	2		○						1		
		放射線診断物理学	1後	1	1	○			1					
		放射線治療物理学	1前	2		○			1			1		
		放射線計測学	1後	2		○			1					
		情報処理学	1・2前	1		○				1				
		放射線関連法規および勧告	1後	1		○			1					
		解剖学	1前	1		○			2					
		生理学	1前	1		○			2					
		病理学	1前	1		○			2					
		放射線診断学	1前	1		○			1					
		核医学物理学	1前	1		○						1		兼3
		放射線腫瘍学	1後	1		○			1					
		放射線生物学	1・2後	1		○						1		兼2
		医学統計学入門	1・2前	2		○						1		兼1
		医学データ解析入門	1・2後	2			※							①⑥⑦共通
		医療情報学	1・2後	1	1	○								⑥⑦共通
		医用情報学セミナーⅠ	1通	4			○		3	1	1	1		④⑥⑦共通
		医用情報学セミナーⅡ	2通	4			○		3	1	1	1		④⑥⑦共通
		医用物理学特論	1通	2		※			1		1			④⑥⑦共通
		画像情報学特論Ⅰ	1前	2		※			1					④⑥⑦共通
		画像情報学特論Ⅱ	1前	2		※			1					④⑥⑦共通
		医用画像工学特論Ⅰ	1・2前	2		※			1					④⑥⑦共通
		医用画像工学特論Ⅱ	1・2前	2		※			1	1				④⑥⑦共通
		生体応用科学セミナーⅠ	1通	4			○		4					④⑥⑦共通
		生体応用科学セミナーⅡ	2通	4			○		4					④⑥⑦共通
		画像診断学特論	1前	2		○			1					④⑥⑦共通
		画像解析学特論Ⅰ	1前	2		※			1					④⑥⑦共通
		画像解析学特論Ⅱ	1後	2		※			1					④⑥⑦共通
		放射線検査学特論	1前	2		※			1					④⑥⑦共通
		放射線治療学特論	1前	2		※			1					④⑥⑦共通
		放射線論文読解演習	1通	2			○		7	1	2	3	2	④⑥⑦共通
		医学物理士トレーニング	1・2後	2				○	1			1		兼1
		論文研究	2通	10			○		26					②⑥⑦共通
		小計(35科目)	—	30	44	0	—		26	1	2	3	2	兼9
合計(187科目)		—					—		26	7	6	17	2	兼73
学位又は称号	修士(看護学又は保健学)	学位又は学科の分野		保健衛生学関係(看護学関係)、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)										